

TOKYO PACK で行ったセミナーの一部（ディスカッション部分）を
日報ビジネス株式会社発行の「包装タイムス」2023年1月16日号に採録いただきました

tokyo-pack.jp/seminar/seminar06.php

国立環境研究所 × マシガンズ滝沢秀一 × 日本包装専士会: Z世代が問う未来への課題～パッケージ、食品ロス～

TOKYO PACK2021では、国立研究開発法人 国立環境研究所で都市ごみ研究の最前線に行く稲葉陸太氏と、芸人でありごみ清掃員として自治体のごみ回収現場の最前線で身体を張る滝沢秀一氏とともにパネルトークを行いました。「家庭系プラごみの一括回収」「2050年のスマートシティのごみ回収のあり方」のテーマに対し、それぞれの立場から議論を展開しました。

2回目となる今回は、生活者サイドにさらに寄り添うことを目的に、Z世代を交えて意見のキャッチボールを行います。気候変動やプラスチック問題、食品ロス問題など世界共通の課題に対し、包装産業としてどのように社会に貢献し、発展を続けていくのか、トークを通して皆さんと考えます。

開催日

10月13日（木）

時間

10:15 ~ 11:45

開催場所

会議棟605



講師：稲葉 陸太 氏

国立研究開発法人 国立環境研究所 | 資源循環領域 資源循環システム研究室
主任研究員



講師：マシガンズ 滝沢 秀一 氏

株式会社太田プロダクション | 環境省「サステナビリティ広報大使」・お笑い芸人・ごみ研究家



講師：橋本 香奈 氏（日本包装専士会）

缶詰技術研究会 | 編集部・部長

Z世代が問う未来への課題 ~パッケージ、食品ロス~

新年号特別企画

新時代TOKYO PACKセミナー

採録レポート

10/11面

テーマ① リデュース・リユース

ついに始まったプラ新法

プラスチック分別回収への期待とは!?

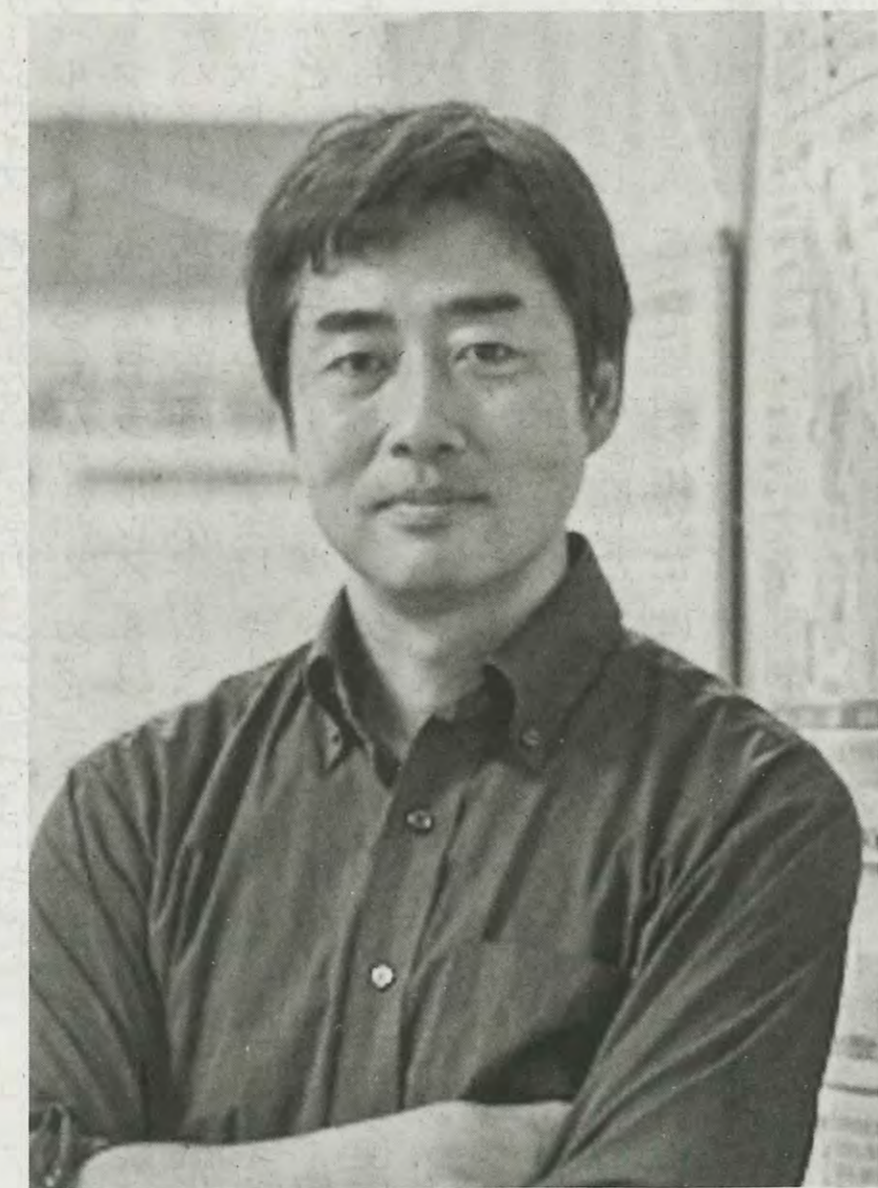
循環型社会の実現へ、変革の時を迎える包装業界。生活者包装、輸送包装ともに、プラスチックパッケージの見直しが進むなか、昨年4月1日に施行した「プラスチック資源循環促進法」をきっかけに、その取り組みは以前にも増して急拡大を見せている。包装技術のエキスパート集団である日本包装専士会では、この危機的状況を見逃すまいと、2030年包装の未来予測プロジェクト「2030年包装未来プロジェクト」を2017年、国内外の産・学・官の有識者や専門家の意見をもとに、未来市場の研究を重ねている。TOKYO PACK 2022では、「家庭系プラスチック一括回収」と「2050年のスマートシティの「ごみ回収のあり方」」をテーマに講演会&パネルトークを企画。コロナ禍のなか、多くの業界人が未来への気づきを得るため、会場に足を運んだ。今回本紙では、昨年のTOKYO PACK 2022で行われた同会主催の「Z世代が問う未来への課題」パッケージ、食品ロス」を中心に、「①リデュース・リユース」、「②リサイクル」、「③食品ロス」の現状と包装企業が取り組むべき課題を紹介する。

講師兼 ファシリテーター
橋本 香奈氏
日本包装専士会 理事/缶詰技術研究会 編集部・部長
技術士(経営工学部門)



大和製罐では食品用途のプラスチック包装・容器の研究開発に従事。2021年4月から缶詰技術研究会へ出向し、月刊誌「食品と容器」発刊業務を担当。「包装技術」や「日本包装学会誌」の編集、日本食品包装協会の会報発行など包装業界での情報発信を数多く手掛けている。滝沢秀一氏とは「包装技術」への執筆依頼をきっかけに親交を深めてきた。日本包装専士会では「2030年包装の未来予測」メンバーとして、TOKYO PACK 2018以降、当会展示ブースに未来予測を発表している。

講師兼 パネリスト
稲葉 陸太氏
国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 資源循環システム研究室 主任研究員



ライフサイクルアセスメント(LCA)を用いた分析研究に従事。現在、「パッケージと食品ロス」の関係性を表すモデル手法の作成に取り組み、双方を巡るトレードオフ構造とシナジー案の提案に力を注ぐ。日本包装専士会とは2019年から関わり、「2030年包装未来プロジェクト」を軸に連携を重ねてきた。未来への分岐点である2030年における課題を整理しながら、2050年におけるシナリオも検討。炭素資源の地域循環共生圏も見据えた、有益なリサイクルシステムの確立を目指す。

講師兼 パネリスト
マシガンズ 滝沢 秀一氏
太田プロダクション
環境省「サステナビリティ広報大使」/お笑い芸人/ごみ研究者



講演会では、ごみ収集現場のリアルな日常をコミカルに解説。家庭ごみから見てきた食品ロス問題を取り上げ、消費者の意識改革の促進を訴える。また食品ロス問題とその背景に潜むライフスタイルとの関係性にも着目。食品ロス解決の手がかりを見つけたながら、独自の切り口で情報発信に取り組む。今回の登壇は、TOKYO PACK 2021の日本包装専士会セミナーに続いて2回目。プラスチック包装の利点を強調しながら、消費者への周知徹底の重要性を説き、包装業界の未来に向けエールを送る。

参加者

講師兼 ファシリテーター
橋本 香奈氏

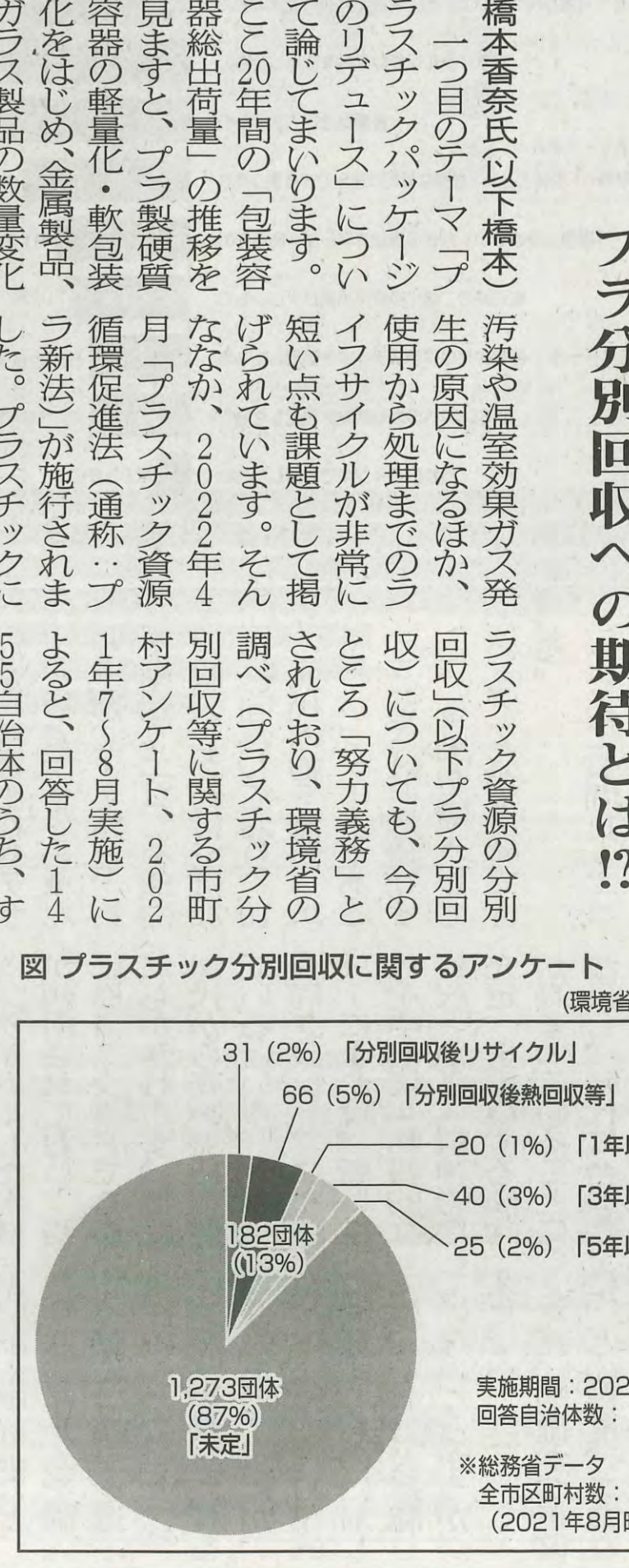
講師兼 パネリスト
稲葉 陸太氏

講師兼 パネリスト
マシガンズ 滝沢 秀一氏

パネリスト
国立大学法人東京農工大学 農工大プラごみ減らし隊
青山 優菜氏/松永 莉紗氏/木村 将成氏



2020年2月設立。農工大生十数名(2022年8月現在)で構成された学生ボランティア団体。主に使い捨てプラスチックの削減(Reduce、Reuse、Recycle、Renewable)とプラスチック問題に関する研究(Research)を推進。SNSを用いた発信活動のほか、環境活動家を招いた学内交流会の企画・運営に取り組む。さらに「コンタクト」専門店のアイシティと協働でコンタクトケースの回収ボックスを学校内に設置。3日間で1kgを超えるコンタクトケースを回収するなど、資源循環の促進に力を注ぐ。



橋本香奈氏(以下橋本) 汚染や温室効果ガス発生(以下プラ)の分別回収(以下分別回収)の理由になるほか、使用から処理までのライフサイクルについて、今のリデュース、リユース、リサイクルが非常に重要な「努力義務」として論じています。短い点も課題として掲げられており、環境省の「2030年包装の未来予測」の移行を促すなか、2022年4月「プラスチック資源循環促進法(通称・プラ新法)」が施行されたことにより、回収率の向上が期待されています。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。

稲葉陸太氏(以下稲葉) 2050年以降のプラスチックの削減は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。

マシガンズ 滝沢 秀一氏(以下滝沢) 2050年以降のプラスチックの削減は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。

青山 優菜氏(以下青山) 2050年以降のプラスチックの削減は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。

松永 莉紗氏(以下松永) 2050年以降のプラスチックの削減は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。

木村 将成氏(以下木村) 2050年以降のプラスチックの削減は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。回収率の向上は、プラスチックの量を削減することによって実現される見込みです。

合意形成で意識改革を後押し

木村 個人的に支持する。有料化は、資本金論、資本金論、資本金論。生産者と消費者が、意識改革「し」につながる。お互いに負担を共有すれば、良いことだと感じ、仕組み作りが必要だと感じます。

稲葉 たしかに有料化については、全体の約6割の自治体で実施している。一方で、アンケート調査でも、削減に対する効果が多く確認されています。心を生み出すことには、削減だけでは難しい。心を生み出すには、削減だけでは難しい。心を生み出すには、削減だけでは難しい。

リサイクルを考慮した包装设计

できることから今すぐスタート

橋本 続いて二つ目のテーマ「プラスチックのリサイクル」についてです。包装業界では、リサイクル技術の確立を目指し、リサイクル可能な素材を開発する取り組みが盛んに行われています。リサイクル可能な素材を開発する取り組みが盛んに行われています。リサイクル可能な素材を開発する取り組みが盛んに行われています。

稲葉 資源循環型社会を目指す上で、リサイクルの推進は不可欠です。リサイクルの推進は不可欠です。リサイクルの推進は不可欠です。リサイクルの推進は不可欠です。

木村 リサイクルの推進には、消費者の意識改革が鍵となります。消費者の意識改革が鍵となります。消費者の意識改革が鍵となります。消費者の意識改革が鍵となります。

キーワードは「無理なく、楽しく」



学生たちの意見を耳を傾ける稲葉氏(右から2番目)



「み収集場のリアルな様子」を伝える滝沢氏(向)

市民参加型の地域システムを

稲葉 市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。

木村 市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。

滝沢 市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。市民参加型の地域システムは、地域活性化の鍵となります。

リサイクルは誰の責任?



マテリアルリサイクルへ広がり始めた「店頭回収」実証実験



包装業界への想いを語る橋本氏

橋本 包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。

稲葉 包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。

木村 包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。

食品ロスを防ぐプラスチックパッケージ

包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。包装業界は、環境負荷低減に向けた取り組みを加速させています。

無残に捨てられる食材